

農林水産物の生産等概況について

1 要旨・目的

県内産農林水産物の生産及び販売の概況を報告する。

2 現状・背景

—

3 概要

(1) 調査対象

卸売市場、出荷団体等

(2) 調査期間

令和5年10月～令和6年1月

(3) 調査結果

ア 農産物

(ア) 普通作物の生産状況

a 水稻

令和5年産の県内の主食用米の作付面積は20,500haで、前年産に比べ600ha減少した。

作柄については、日照時間が少なかったため、穂数は「やや少ない」となったものの、1穂当たりもみ数は「やや多い」となったことから全もみ数は「平年並」となり、作況指数は「103（北部103・南部103）」となった。

令和5年産の県産米の12月までの価格は、令和4年産の民間在庫量が減少したことなどから、令和4年産を上回る水準で推移している。

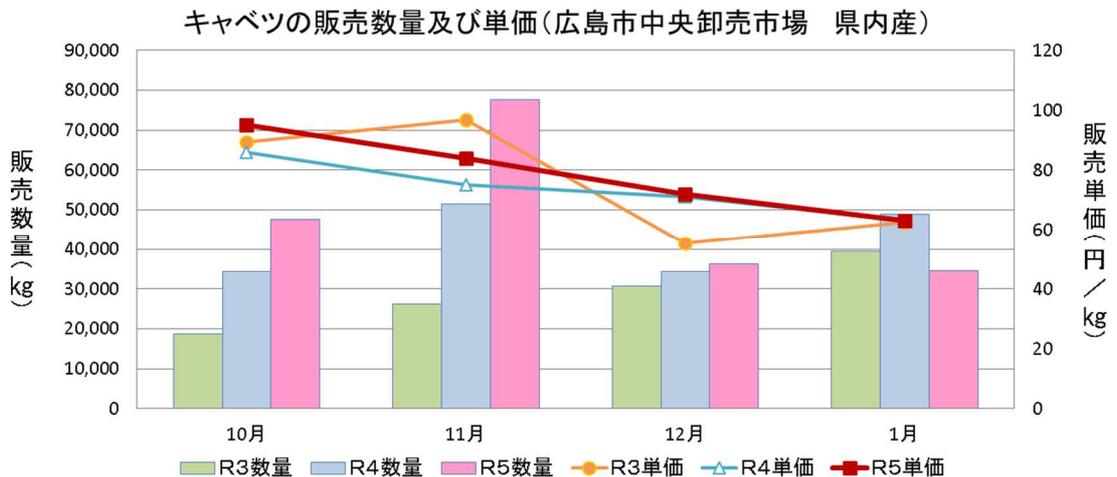
令和6年産の生産の目安については、需要量が令和5年産並みと見込まれることから、令和5年産の作付面積と同等の面積を維持するよう働きかけている。

(イ) 野菜の生産状況

a キャベツ

庄原市や北広島町、尾道市、呉市等から出荷されている。

10月、11月の販売数量は、生育が順調だったことに加え、大規模経営体が業務用に広島中央卸売市場を經由して出荷を行ったため、前年に比べ4～5割の増となった。

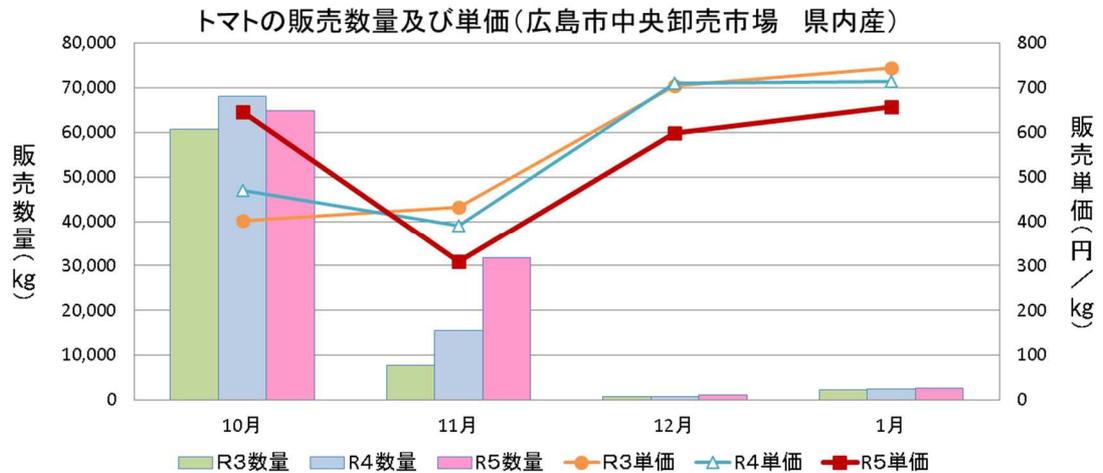


b トマト

11月まで神石高原町や庄原市、北広島町から出荷され、生育は順調であった。

販売単価は、10月是他県産の市場入荷量が少なく、前年よりも4割程度高値となったが、11月以降は入荷量が多くなり、前年より安値で推移している。

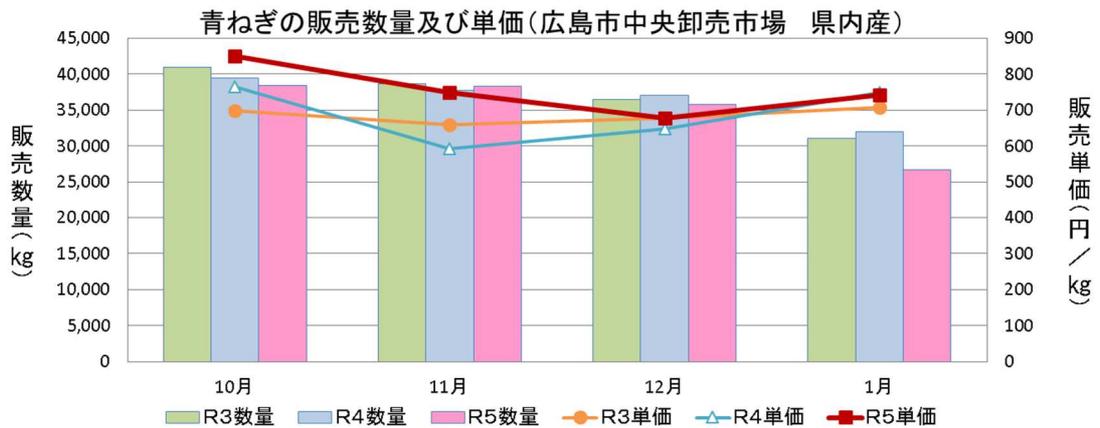
12月からは、主に呉市で冬春トマトの出荷が始まっており、生育は順調である。



c 青ねぎ

主に安芸高田市から出荷されており、生育は順調である。

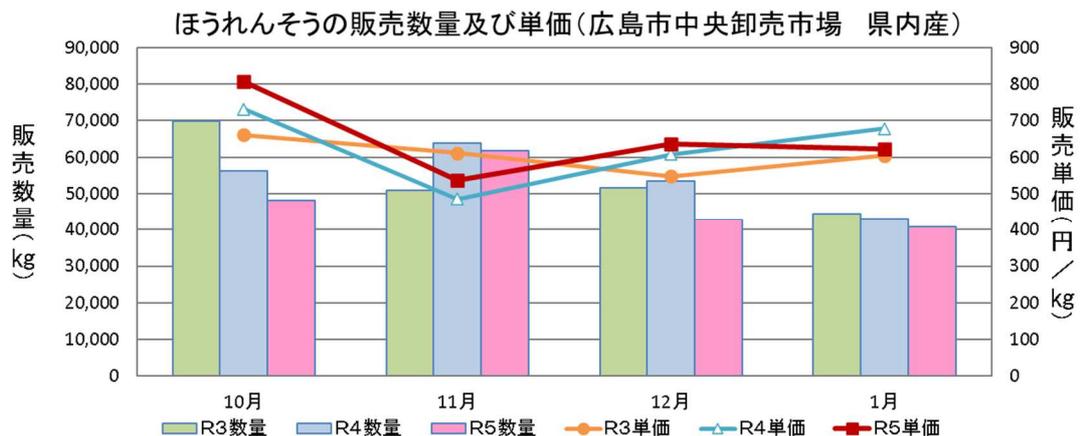
販売単価は、高温・干ばつによる他産地の出荷減により、11月までは高値傾向となり、12月以降は平年並みで推移している。



d ほうれんそう

主に広島市、庄原市等から出荷されている。

10月の販売数量は、高温・干ばつの影響で平年より2割程度減少し、単価は1割程度高値となった。11月以降の販売数量は回復が見られるが、少なめで推移している。

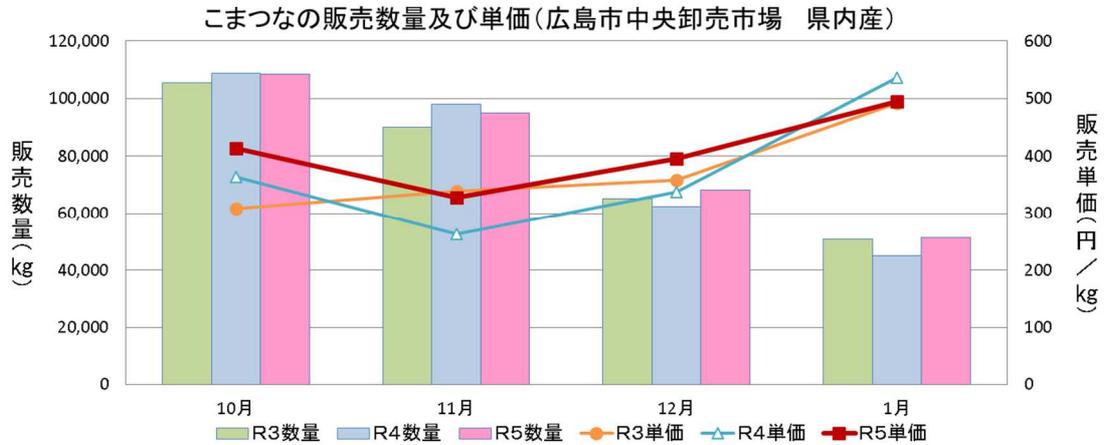


e こまつな

主に広島市等から出荷されている。

生育は順調で、販売数量は前年より1割程度多く推移している。

販売単価は、野菜全体の品薄感から前年よりやや高値で推移している。



(ウ) 果樹の生産状況

a うんしゅうみかん (JA広島果実連扱い)

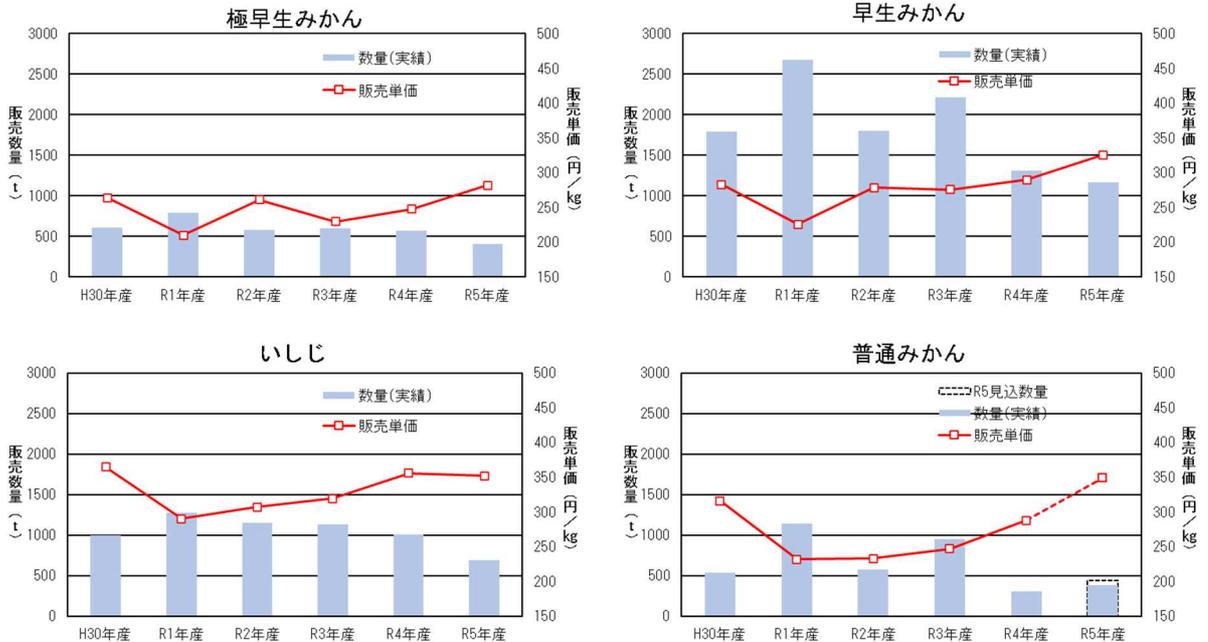
販売開始は平年並みで、極早生みかんが10月6日、早生みかんは11月4日、いしじ及び普通みかんは11月28日から出荷・販売された。

生育状況は、表年で着果数が多かった一方、干ばつの影響で小玉比率が高くなった。

販売数量は、極早生みかん、早生みかん、いしじにおいて前年を下回った。

品質は、糖度が高く良好な食味となった。

販売単価は、みかんに加え、同時期のりんご、かき等の市場入荷数量も少なく、前年より高値となった。

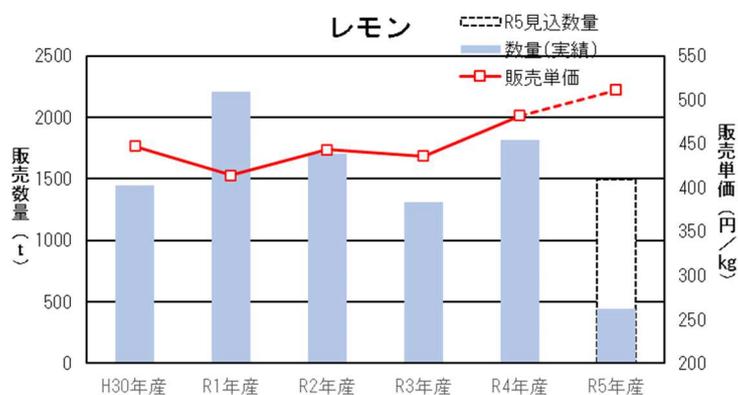


※ 数値はJA広島果実連扱いの販売数量及び販売単価。普通みかんの令和5年産については、令和6年1月までの実績(販売数量、販売単価)及び令和5年12月時点での販売数量見込み(点線)。

b レモン（JA広島果実連扱い）

昨年の寒波被害の影響で着果が少なく、夏季以降の干ばつの影響から小玉傾向で推移しており、販売数量は前年を下回ると見込んでいる。

販売単価は、販売数量が少ない上、台風が接近しなかったため病害発生が少なく外観が良好であることに加え、G7 広島サミットの効果もあり、昨年より高値で推移している。

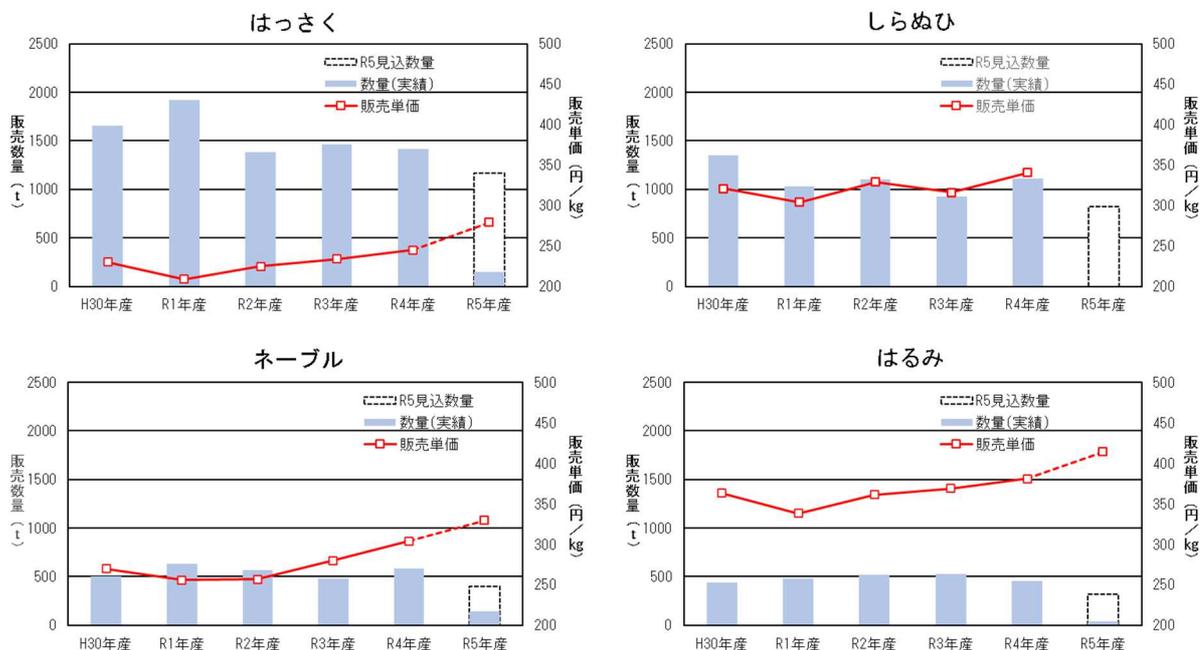


※ 数値はJA広島果実連扱いの販売数量及び販売単価。令和5年産については、令和6年1月までの実績（販売数量、販売単価）及び令和5年12月時点での販売数量見込み（点線）。

c 中晩柑類（JA広島果実連扱い）

中晩柑類については、概ね前年並みの着果量であったが、夏季以降の干ばつから小玉傾向となっており、販売数量は前年を下回ると見込んでいる。

全体的に高糖度で食味が良く、円安の影響により輸入果実の価格が高騰していることから国内産の需要が高いため、前年産より高値傾向で推移している。



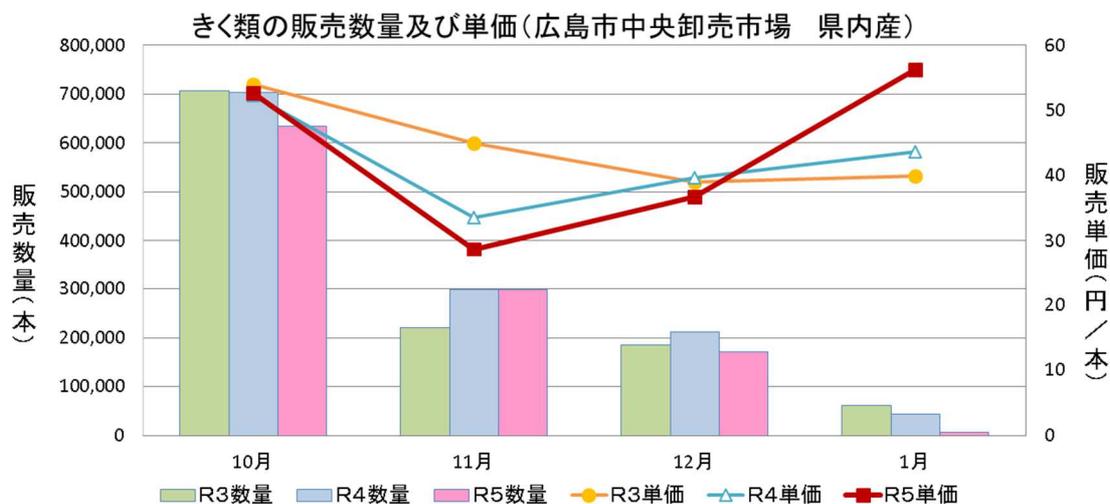
※ 数値はJA広島果実連扱いの販売数量及び販売単価。令和5年産については、令和6年1月までの実績（販売数量、販売単価）及び令和5年12月時点での販売数量見込み（点線）。

(I) 花きの生産状況

a きく

11月以降、県北部からの出荷が終わり、南部の産地を中心に出荷されている。

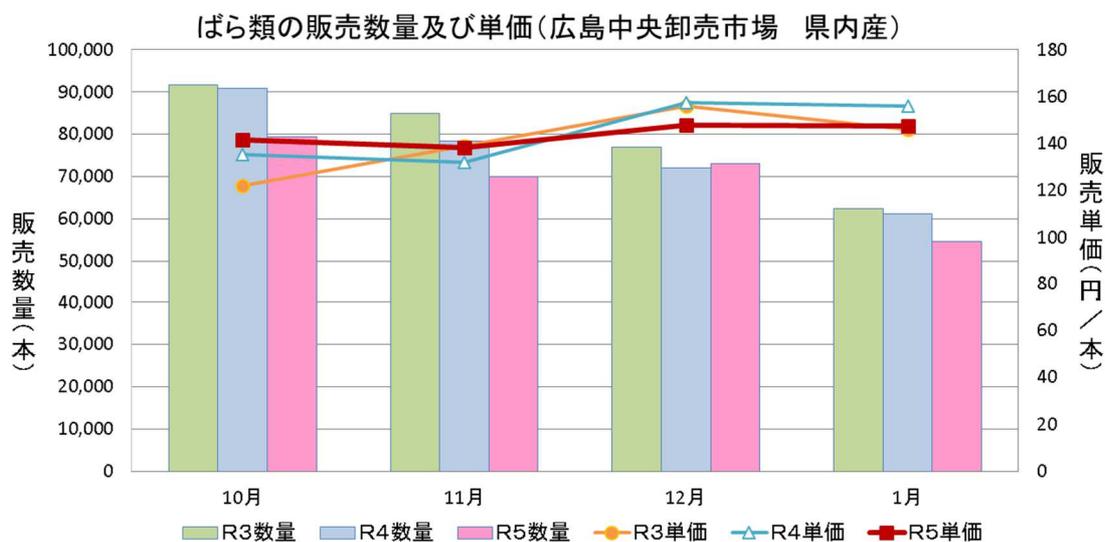
販売単価は、平年より気温が高い影響で生育が前進し、12月までは安値傾向となったが、1月は市場への入荷量が少なく、前年より2割程度高値となった。



b ばら

主に廿日市市、江田島市、呉市から出荷されている。

販売数量は、夏の高温で株が弱った影響が残り、前年よりも約1割減で推移している。

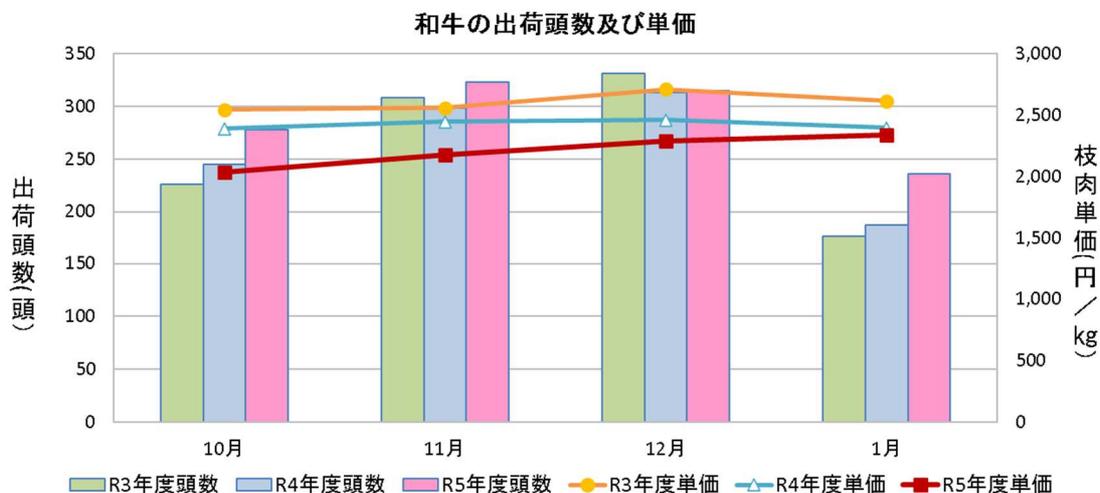


イ 畜産物の生産状況等

(7) 和牛

出荷頭数は、前年を上回って推移している（前年比 101～126%）。

枝肉単価は、相次ぐ物価上昇による消費者の買い控えにより和牛肉の引き合いが弱くなったことから、前年を下回って推移している（前年比 85～97%）。

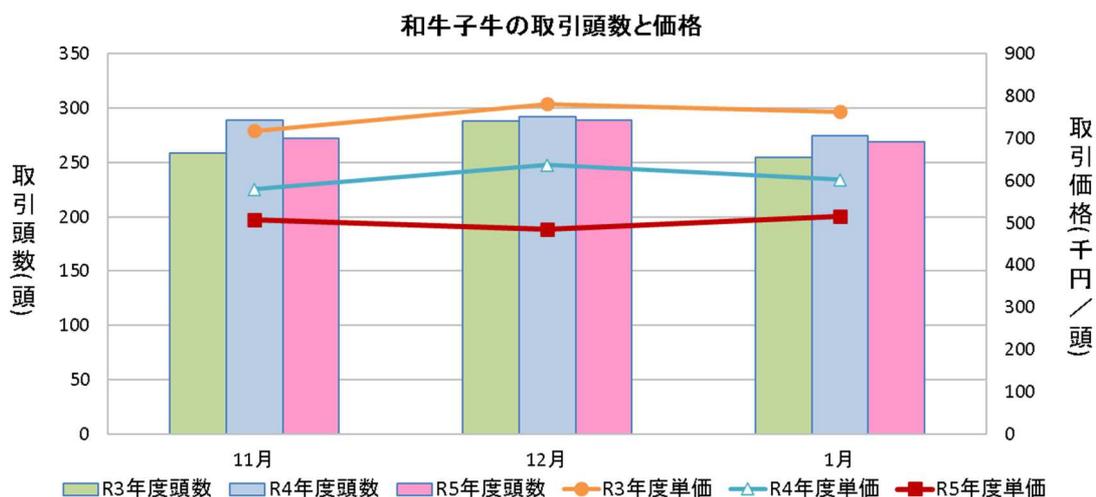


※ 「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
出荷頭数は全ての和牛（成牛）、枝肉単価は和牛去勢A4でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。

(イ) 和牛子牛

出荷頭数は、前年をやや下回って推移している（前年比 94～99%）。

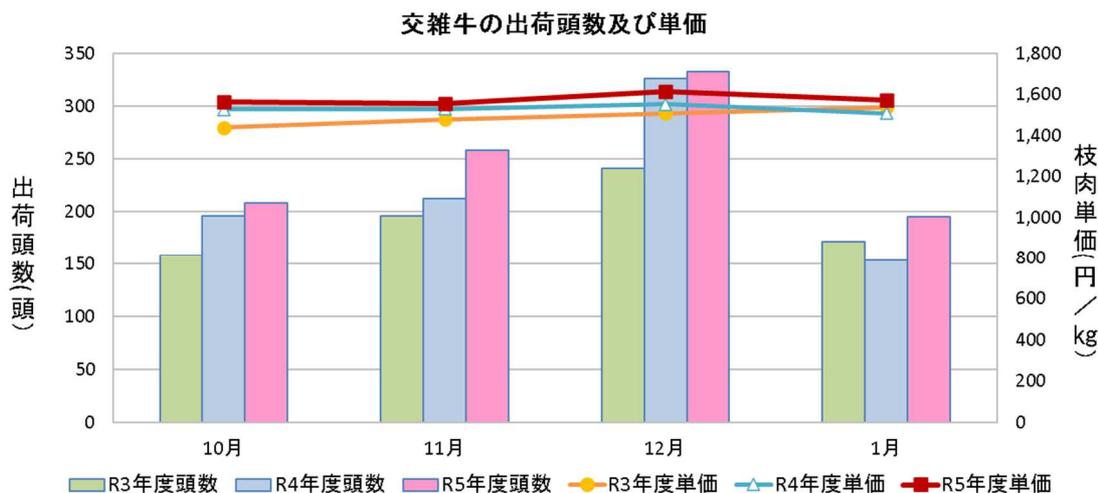
取引単価は、飼料価格等の生産資材高騰や枝肉単価が低下傾向にあることにより肥育経営体の収支が悪化していること等から、前年を大幅に下回って推移している（前年比 76～88%）。



※ 「肉用子牛取引情報（独立行政法人農畜産業振興機構）」

(ウ) 交雑牛

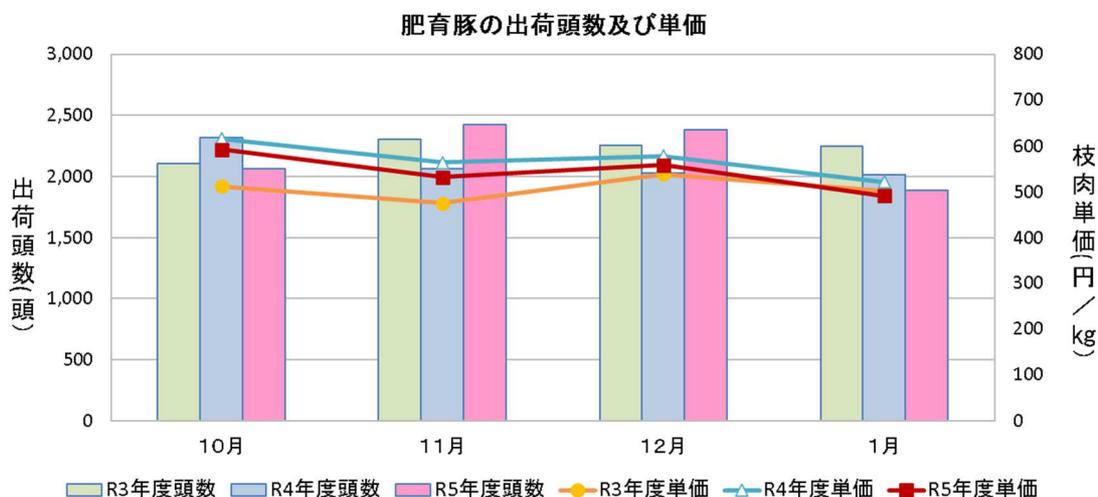
出荷頭数は、前年を上回って推移している（前年比 102～127%）。
 枝肉単価は、前年をやや上回って推移している（前年比 102～104%）。



※ 「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
 出荷頭数は全ての交雑牛（成牛）、枝肉単価は交雑牛去勢 B3 でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。

(エ) 豚

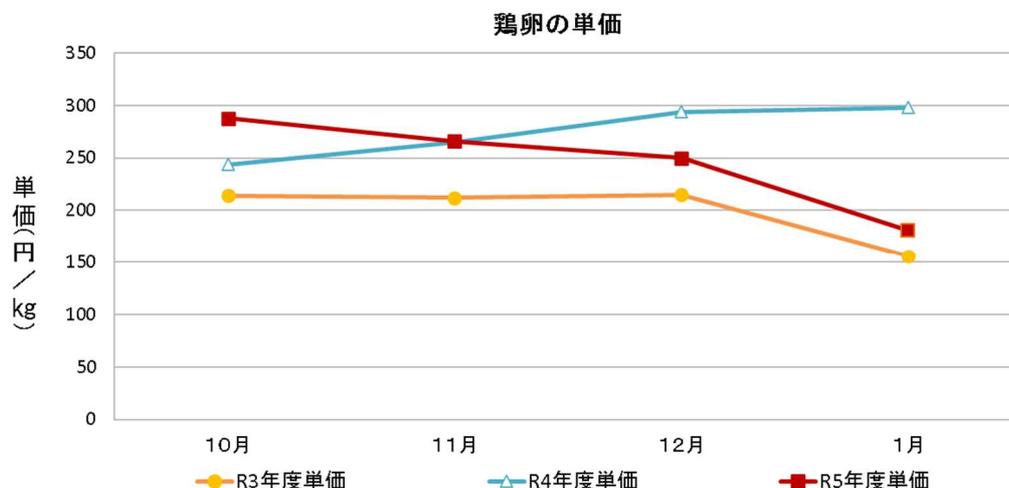
出荷頭数は、月により変動はあるが、前年を上回っている（前年比 104%）。
 枝肉単価は、前年を下回って推移している（前年比 94～97%）。



※ 「広島市中央卸売市場食肉市場」の県内産
 ※ 「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
 枝肉単価は上規格で広島市中央卸売市場食肉市場。

(オ) 鶏卵（全農ひろしま M）

鶏卵の単価は、10月は前年を上回ったが、高病原性鳥インフルエンザの発生農場での生産が回復傾向にあることや、気温の低下に伴い産卵に適した環境に近づいたことなどから、供給量が回復しているため、前年度を下回って推移している。

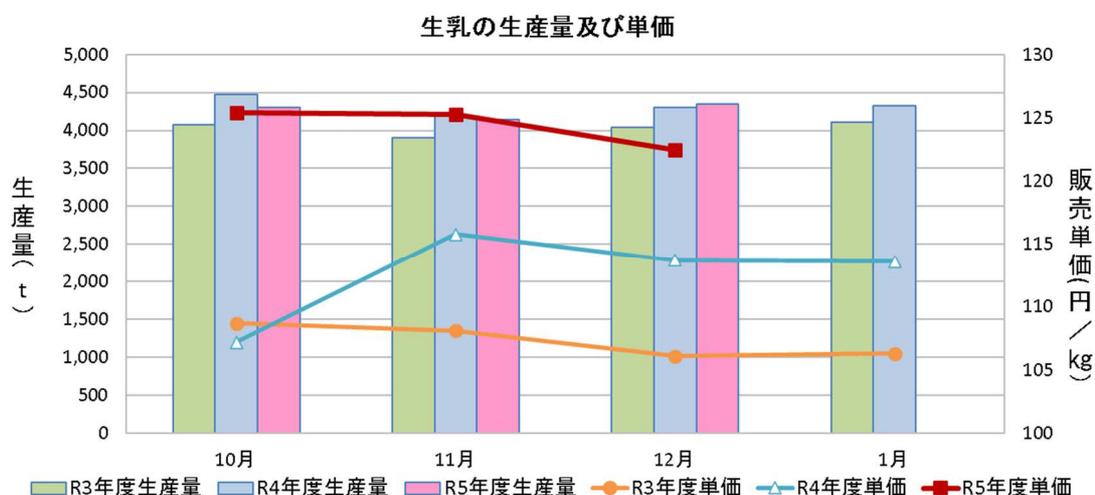


※「全国農業協同組合連合会広島県本部」（M品の単価）

(カ) 酪農

生乳生産量は、前年並みで推移している（前年比 96～101％）。

生乳の販売単価は、飲用向け乳価が令和4年11月と令和5年8月に10円/kgずつ値上げされたことを受け、前年より10～20円程度高く推移している。



※生乳生産量は、「牛乳乳製品統計」。乳価は広島県酪農業協同組合開取りで手取り乳価。

(キ) 飼料等価格

配合飼料の価格は、穀物相場や円安等の影響で、月により増減はあるが、依然として高値が続いている。

粗飼料の価格についても、値下がり傾向にあるが、高止まりの状況となっている。

ウ 林産物

木材の生産状況

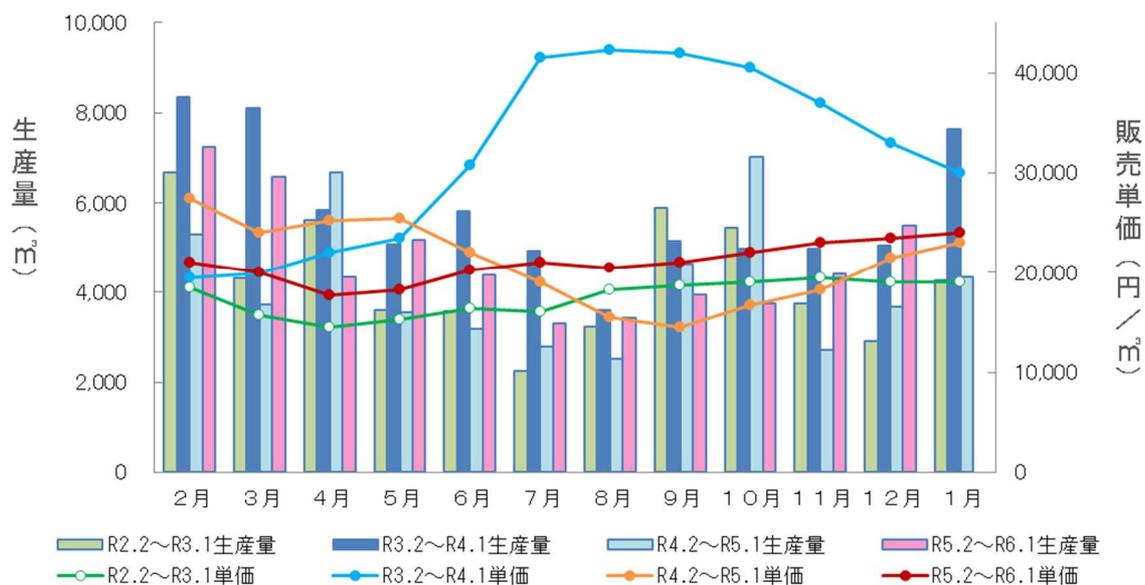
ヒノキの生産量は、県産材需要に対応するため、県北部で主にヒノキを製材する工場が製材機械を更新し、昨年4月以降増産体制を取っていることから、前年を上回っている。

販売単価については、県産材の引き合いが強いため、前年に比べ高い水準となっている。

また、令和3年3月の「ウッドショック」以前の令和2年10月～令和3年1月と比較しても、生産量及び販売単価は高い水準で推移している。

引き続き、木材の価格動向等を注視するとともに、流通コーディネーターと連携して需要先の確保を行っている。

ヒノキの生産量及び販売単価



※生産量：県内の森林組合におけるヒノキの生産量（林業課調べ）

販売単価：広島県森林組合連合会三次共販所におけるヒノキの販売単価

オ 水産物

(7) 水温

1月上旬の県内海域の表層の水温は 11.9～14.8℃で、平年差は-0.9～+1.6℃であった。

海 域	広島湾	安芸灘	備後灘
1月上旬の水温	12.1～14.5℃	14.5～14.8℃	11.9～14.4℃
平年差	-0.9～+1.2℃	+0.9～+1.2℃	+1.1～+1.6℃

(イ) 漁獲状況

a 取扱数量

広島市中央卸売市場における県内産の主要な漁獲物 17 品目の取扱数量は、マダイ、カワハギ、ヒラメ、サワラ、サゴシの 5 品目で平年を上回った。一方で、12 品目で平年を下回った。

b 取扱単価

県内産の取扱単価については、17 品目中 15 品目で平年を上回った。

広島市中央卸売市場における水産物の販売状況 (R 5.12)

品 目	市 場 全 体						県 内 産					
	数 量			単 価			数 量			単 価		
	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %
マダイ	44.7	108	99	875	93	87	14.7	84	103	750	98	85
スズキ	14.7	94	77	656	104	118	9.6	87	82	607	101	126
カワハギ	11.6	81	36	2,471	142	273	7.8	110	133	3,215	113	188
タコ	10.1	104	47	2,288	99	140	2.4	60	39	2,480	102	147
クロダイ	4.4	118	81	461	105	112	4.2	122	85	467	103	108
コウイカ	3.3	98	51	821	95	137	1.5	64	40	997	107	156
アナゴ	37.6	101	81	1,965	102	112	2.3	105	55	1,585	80	106
シタビラメ	2.4	79	30	1,315	118	160	1.3	72	21	1,300	123	163
ナマコ	29.3	115	58	2,106	84	131	1.3	96	42	2,928	54	148
サヨリ	3.3	117	58	849	67	90	0.5	54	17	885	82	108
ヒラメ	11.4	145	110	1,823	76	90	3.9	483	495	578	25	27
サワラ	9.8	101	49	2,085	100	161	0.9	233	149	1,856	102	156
サゴシ	13.6	219	67	625	78	130	0.4	239	102	871	116	133
キジハタ	0.4	85	73	2,297	113	101	0.3	69	93	2,259	113	101
カサゴ	1.0	141	43	861	108	112	0.5	134	29	829	111	111
ガザミ	1.1	92	31	6,313	103	162	0.2	105	21	3,576	117	130
オコゼ	0.3	101	26	3,835	112	190	0.2	87	18	3,605	112	195

平年値は平成 25 年～令和 4 年の平均

ｃ 煮干共販実績

煮干し（いりこ、ちりめん）については、6月中旬から出荷が始まっている。

漁期前半の販売数量が平年並みだったものの単価が高く、後半は漁獲状況が良かったことから共販額が伸び、平年比 191%の約 29 億円（1月末時点累計）となっている。

広島県煮干共販出荷実績（1月末現在累計）

区 分	数量（t）	金額（千円）	平均単価（円/kg）
令和5年度 （平年比）	2,808 （141%）	2,967,321 （191%）	1,056 （135%）
平 年	1,994	1,557,162	781

平年値は平成30年～令和4年の平均（1月末時点累計）

（ウ） 養殖状況

ａ かき養殖

むき身の出荷については、10月から始まった。

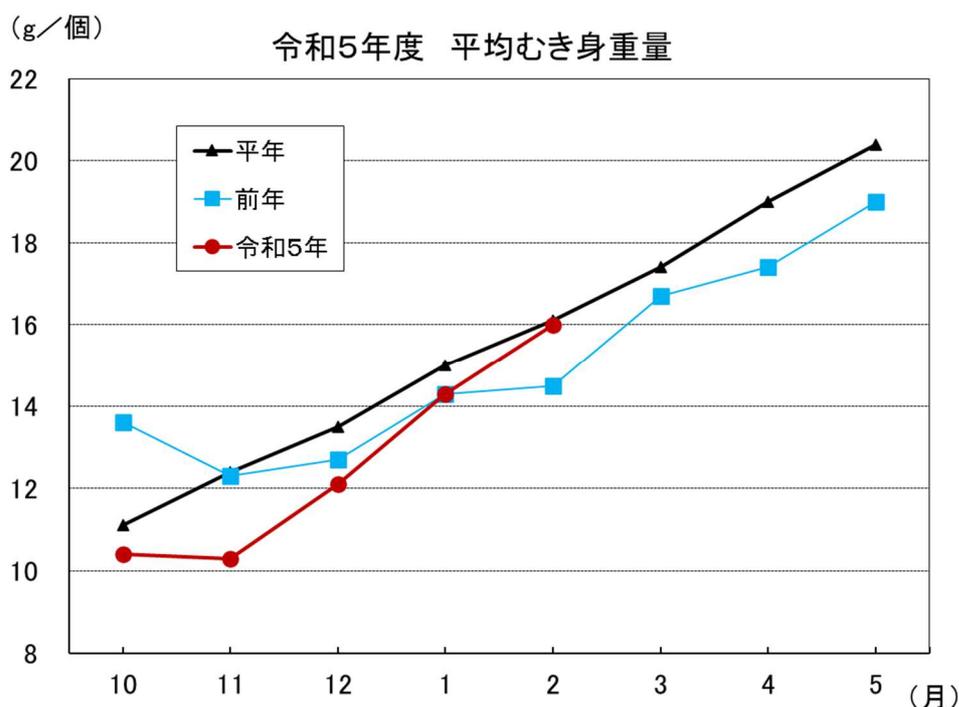
海水温が高く、降水量が非常に少ないことによるエサ不足から、生育が遅れ気味となっていたが、現時点でのかき1個当たりの重量は、平年比で99%と平年並みに回復している。

平均単価は、平年比 144%の 975 円/kgで推移している。

広島県かき成育状況調査結果（2月調査）

区 分	平均むき身重量（g/個）	平均単価（円/kg）
令和5年度 （平年比）	16.0 （99%）	975 （144%）
平 年	16.1	675

平年値は平成25年～令和4年の平均（2月調査）



b のり養殖

今期は、生育不良の影響により年内の共販が中止となり、1月上旬から出荷が始まった。

平均単価は、平年比 186%の大幅な高値となったが、共販数量が平年を大きく下回ったため、現在までの共販金額は、平年の 72%となっている。

広島県乾のり共販出荷実績（2月1日現在累計）

区 分	数量（千枚）	金額（千円）	平均単価（円/枚）
令和5年度 （平年比）	11,431 （39%）	213,602 （72%）	18.69 （186%）
平 年	29,425	295,636	10.05

平年値は平成25年～令和4年の平均（2月1日基準）